

## 令和2年度事業概要

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	797 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	5,557 点
	6,354 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 1,400 人

### II 展覧会事業

#### (1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観覧者数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (272 日間)	2,428	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。(◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 『ねないこだれだ』 誕生 50 周年記念 せなけいこ展	6/ 2(火) ～ 7/26(日) (48 日間)	10,220	『ねないこだれだ』や『めがねうさぎ』の作者として知られる絵本作家のせなけいこ(1931-)は、子育てに奔走する中、37歳で絵本作家としてデビュー。以来、おばけや妖怪、うさぎなどをモチーフに、貼り絵の手法を用いて生み出したシンプルながらも独創的な絵本は、世代を越え、多くの親子に読み継がれるロングセラー。本展では、代表作のひとつ『ねないこだれだ』の誕生 50 周年を記念し、絵本デビュー作の「いやだいやだの絵本」4 冊シリーズをはじめとする絵本原画や貴重な資料など、約 250 点を出品。これまであまり知られていなかった、絵本作家デビュー前の幻燈や紙芝居の仕事もひもとき、せなけいこの創作の全貌を紹介した。
特別展 作家たちの交差点 —「北の話」が残した時間	8/22(土) ～ 11/15(日) (75 日間)	1,323	「北海道を旅する手帖」として北の大地の魅力を伝え続けた郷土随筆誌「北の話」は平成 9(1997)年に 35 年、通巻 202 冊の歴史を閉じた。道内外の作家、随筆家、詩人、歌人など約 500 人の執筆者たちが紡いできた「北の話」。終刊から 20 余年が過ぎたいま、掲載された作家たちの息遣いが聞こえてきそうなオリジナル原稿などの資料を中心に、北海道の文学に「北の話」が残した軌跡に触れていただいた。
ファミリー文学館 おいしい! 美味い!! 文学	12/12(土) ～ 3/ 7(日) (68 日間)	2,265	“おいしいもの”は大人も子どもも、みんな大好き。もちろん文学者も。だから小説、エッセイや短歌・俳句、こどもたちの好きな絵本にも“おいしい食べ物”はたびたび登場する。いろいろな北海道ゆかりの文学作品から紹介。文学の中の“おいしい”を味わっていただいた。

※ 特別展「太宰治—創作の舞台裏」と特別展「天災地変人禍に抗して—北海道の災害記録と文学—」は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館等のため中止。

#### 【常設展アーカイブ】

- ・第 1 期展示 [4 月 11 日(土) ～7 月 19 日(日)]  
豆本ワールド  
本の世界を小さく彩ってきた「豆本」の世界を当館収蔵資料から紹介。
- ・第 2 期展示 [8 月 7 日(金) ～10 月 4 日(日)]  
《アイヌ絵巻》と文学  
当館所蔵のアイヌに関する文学・絵画資料を中心に紹介。
- ・第 3 期展示 [10 月 20 日(火) ～12 月 20 日(日)]  
大本靖 四季の風景

北海道各地を取材した大本靖の季節感豊かな木版画を、文学とともに味わう。

・第4期展示 [1月19日(火)～3月14日(日)]

「書」で味わう文学

掛け軸、色紙、短冊など文学の香りをたたえた書を紹介。

## (2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎『『伸子』覚え書き』自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

### Ⅲ 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	ギャラリーツアー 講師：当館学芸員	11/1(日)、11/15(日) 全2回		5		常設展関連事業
〃	対談「いま、『北の話』を語る」 講師：乳井洋一(北海道新聞OB)、金子国彦(北海道新聞OB)	9/5(土)	80	28	35.0%	「北の話展」関連事業
〃	朗読会「『北の話』を聞く」	10/11(日)	80	23	28.8%	〃
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	募集 7/1(水)~9/9(水) 展示 11/28(土)~1/11(月・祝)	4,500	7,545	167.7%	
ファミリー文学館	朗読会「聴いて味わう“おいしい!”文学」	12/13(日)、1/24(日) 2/11(木・祝) 全3回	240	77	32.1%	
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	9/6、10/4、11/8、 12/20、2/7 全5回	450	58	12.9%	
映像作品鑑賞のついで	「泥だらけの純情」	8/30(日)	60	15	25.0%	
〃	「幸福の黄色いハンカチ」	9/27(日)	60	15	25.0%	
〃	「真白き富士の嶺」	11/22(日)	60	21	35.0%	
〃	「そよかぜ」	2/21(日)	60	14	23.3%	
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	11市町村 14会場	1,200	741	61.8%	
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	4市町村 4会場	2,000	1,844	92.2%	
文字・活字文化の振興事業	講演会「書物と文体から見る日本文学史」 講師：月岡道晴(國學院北海道短期大学教授、歌人)	10/25(日)	70	15	21.4%	
古典の日記念朗読会	朗読：堀きよ美(石山東大人楽団所属) 演奏：黒田拓、村場踊	11/3(火・祝)	70	23	32.9%	
月例朗読会	朗読：朗読表現 ゆうの会 ほか	10/8、12/10、3/4 全3回	500	66	13.2%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2020」 常設展「北海道の文学」の動画を作成し、インターネットで公開	7/17(金)	320	オンライン参加		
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(272日間)	2,400	1,400	58.3%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(272日間)		117		
負担金事業計			12,150	12,007	98.8%	
※ 文学館カレッジ	20世紀北海道の文芸作品Ⅱ、児童文学創作教室Ⅱ、絵本を学ぼう、生涯読書会の4講座	8~3月	450	148	32.9%	
※ ロビーコンサート	「秋の夜のチェロコンサート」	11/7(土)	120	22	18.3%	
※ ぶらり文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	10/20(火)、11/10(火)	30	14	46.7%	
※ 文学館まつり	朗読とカンテレ演奏、秋のミニ色紙づくり、ミニ古書市など	9/22(火・祝)	300	169	56.3%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	5/26~7/26、 8/25~11/8、 1/16~2/28、 3/6~3/31 全4回		7,233		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(272日間)	100	20	20.0%	
財団企画事業計			1,000	7,606	760.6%	
			13,150	19,613	149.1%	

#### Ⅳ 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「『ねないこだれだ』誕生 50 周年記念せなけいこ展」関連資料調査
- ② 特別展「太宰治 創作の舞台裏」展関連資料調査
- ③ 特別展「作家たちの交差点―「北の話」が残した時間」展関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「おいしい！美味しい！！ 文学」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「天災地変人禍に抗して―北海道の災害記録と文学―」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「太宰治 創作の舞台裏」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「天災地変人禍に抗して―北海道の災害と文学―」展関連資料調査
- ⑨ 次年度のファミリー文学館「彫り続けた北の自然―絵本作家・手島圭三郎の 40 年」展関連資料調査
- ⑩ 次年度の特別展「小説挿絵の魅力―文芸作品に伴走して」展関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「よみがえれ！とこしえの加清純子」再び」展関連資料調査

#### Ⅴ 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 中川町教育委員会  
斎藤茂吉記念第 27 回中川町短歌フェスティバル  
(令和 2 年 8 月 1 日～12 月 18 日 中川町)
- ② 札幌大学熊谷ユリヤ研究室  
X'mas バイリンガル朗読とハーブ  
(令和 2 年 12 月 19 日 札幌市男女共同参画センター エルプラザホール)
- ③ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室  
(令和 3 年 3 月 9 日 札幌市時計台ホール)

#### Ⅵ 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、新聞紙上で有料広告のほか TV スポット CM を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 121 号（6 月 26 日付）、第 122 号（10 月 21 日付）、第 123 号（12 月 25 日付）、第 124 号（3 月 19 日付）を発行した。

#### Ⅶ 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「作家たちの交差点―「北の話」が残した時間」パンフレットの刊行

#### Ⅷ その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入  
博物館実習生―10 名（受入期間 5 月～3 月。実習期間 2 週間）